

特定非営利活動法人(NPO) ジャパン・ウェルネス

<http://www.japanwellness.jp>

- 2001年5月に米国The Wellness Communityの日本支部として東京に設立
- 専門知識を有したスタッフ(医師・看護師・臨床心理士等)によるサポートを提供
- 1年間に延べ2000名のがん患者と家族がサポートシステムを利用
- サポートシステム: サポートグループ、セカンド・オピニオン、リラクゼーション等

“アクティブな患者”をコンセプトに、がん患者と家族の心のケアに取り組んでいる。

これまでの取組

- 過去5年間で延べ1万人超の
がん患者と家族に心のケアを提供

- ・サポートグループ(1171回、6216名)
- ・リラクゼーション(395回、2076名)
- ・セカンドオピニオン(364回、784名)
- ・イベント(13回、909名)

2006年度の状況

- サポートシステムの
平均月間利用者は約150名

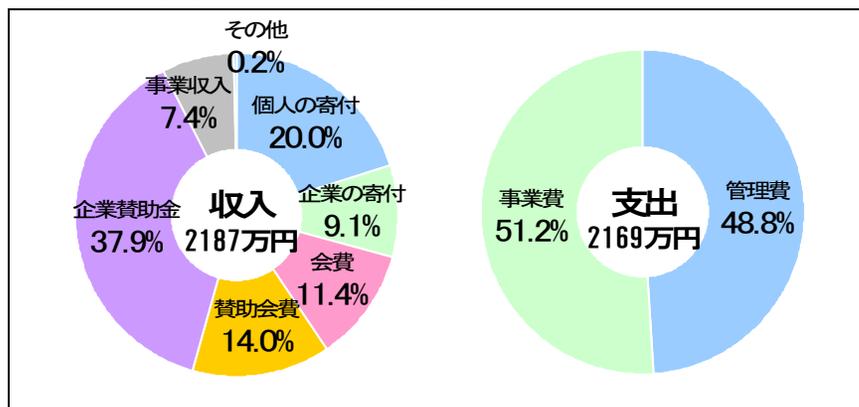
- ・会員: 1250名、賛助会員: 510名
 - ・賛助企業: 71社
 - ・セミナー(年3回、各100名規模)
 - ・シンポジウム(年2回、各500名規模)
- ※第54回菊池寛賞受賞

今後の目標

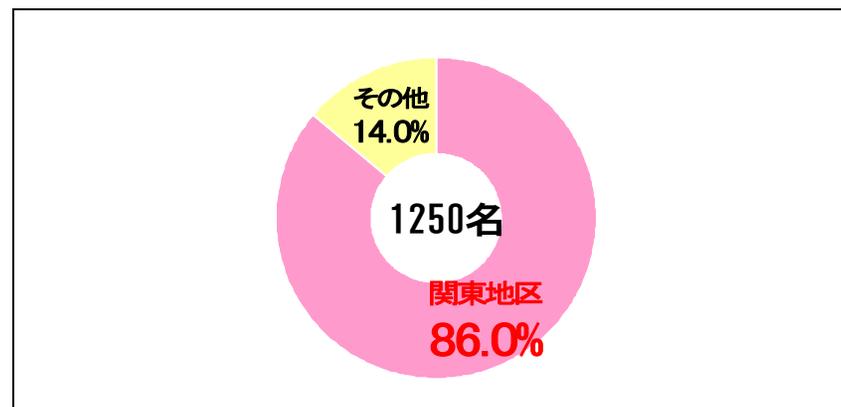
- サポートシステムの拡充
- 認定NPOの取得をめざす

- ・支部開設、地方自治体との連携
- ・ファシリテーター育成
- ・患者教育の推進
- ・(財政基盤の安定化・拡充)

収支報告(2005年度)



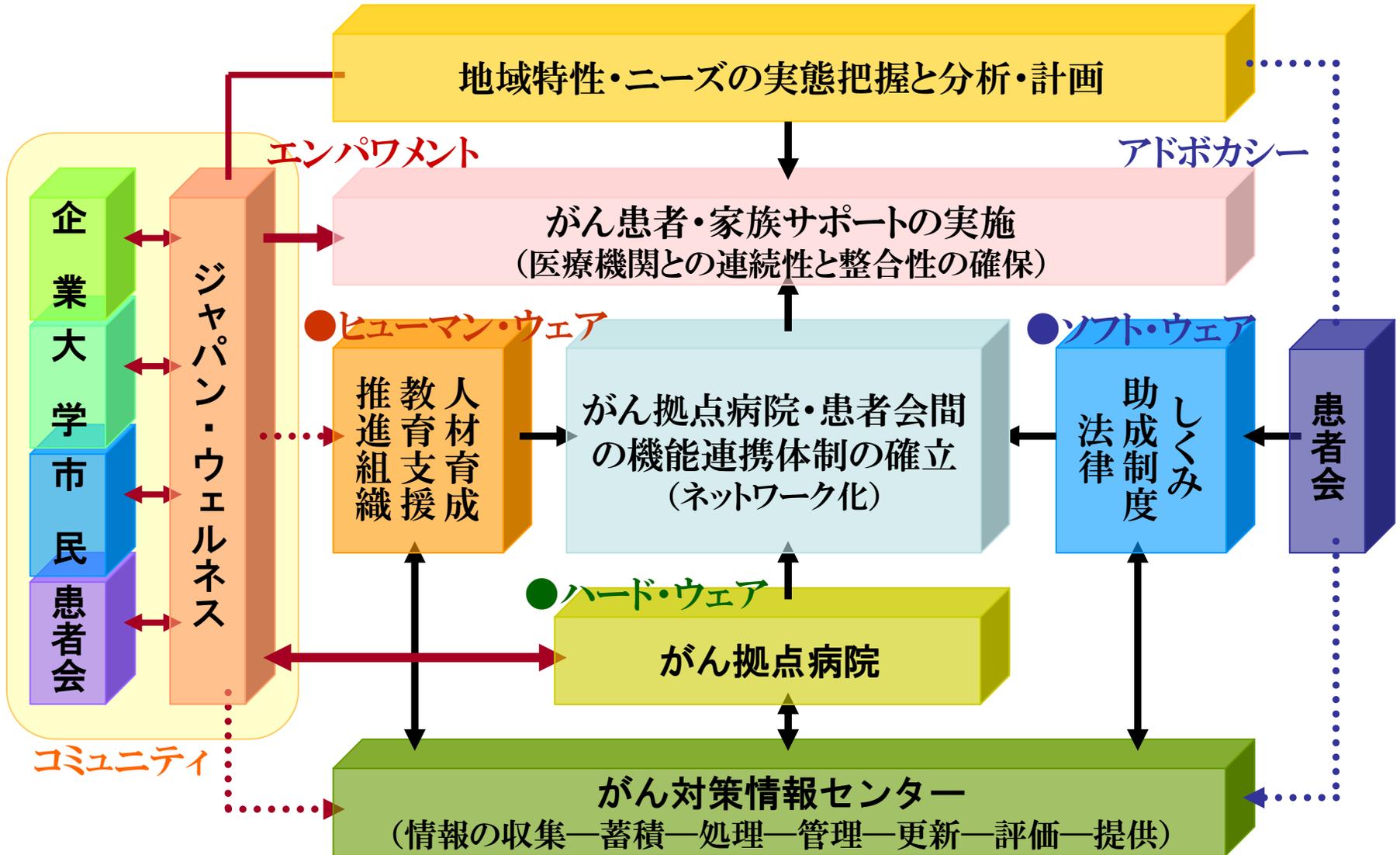
会員地域分布(2006年11月現在)



これからのがん患者サポートシステムのあるべき姿

項目		がん予防	がん医療	がん患者サポート
When いつ	時	定期的に	がんになった時	適切な時に
Where どこで	場所	居住している地域内で	一定せず、個人選択	地域内の適切な所で
Who 誰が	主体	行政指導・指示により	がん拠点病院	患者会等により
Whom 誰に	対象	特定の集団に	患者(家族)に	必要な人に
Why 何のために	目的	がんにならないため 早期発見のため	がんを治すため	QOLの高い生活のため
What どんな	内容	がん予防 早期診断・患者教育	診断・治療	連続したサービス
How どのように	方法	集団を対象に画一的に	個別に	個人の欲求レベルに応じて効果的・効率的に
特徴		画一化・量的効率化 全体主義 計画性 協力体制の不備	個人格差 個別目的の発生 計画性の欠如 医療格差の発生	個人と全体の調和 個別目的の拡大 包括性 相互協力関係の重視

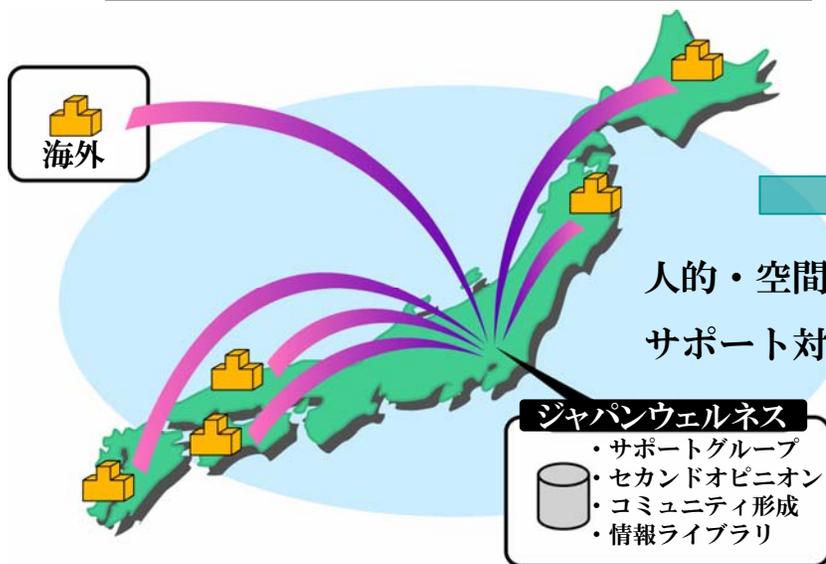
がん患者・家族サポートシステム



がん患者・家族サポートシステムの量的拡充構想

現 状

インターネットを利用し、
全国どこからでもアクセスが可能



サポートグループ



セカンドオピニオン



将 来

地域・市民・企業の協力が必要

認定NPOの取得をめざす

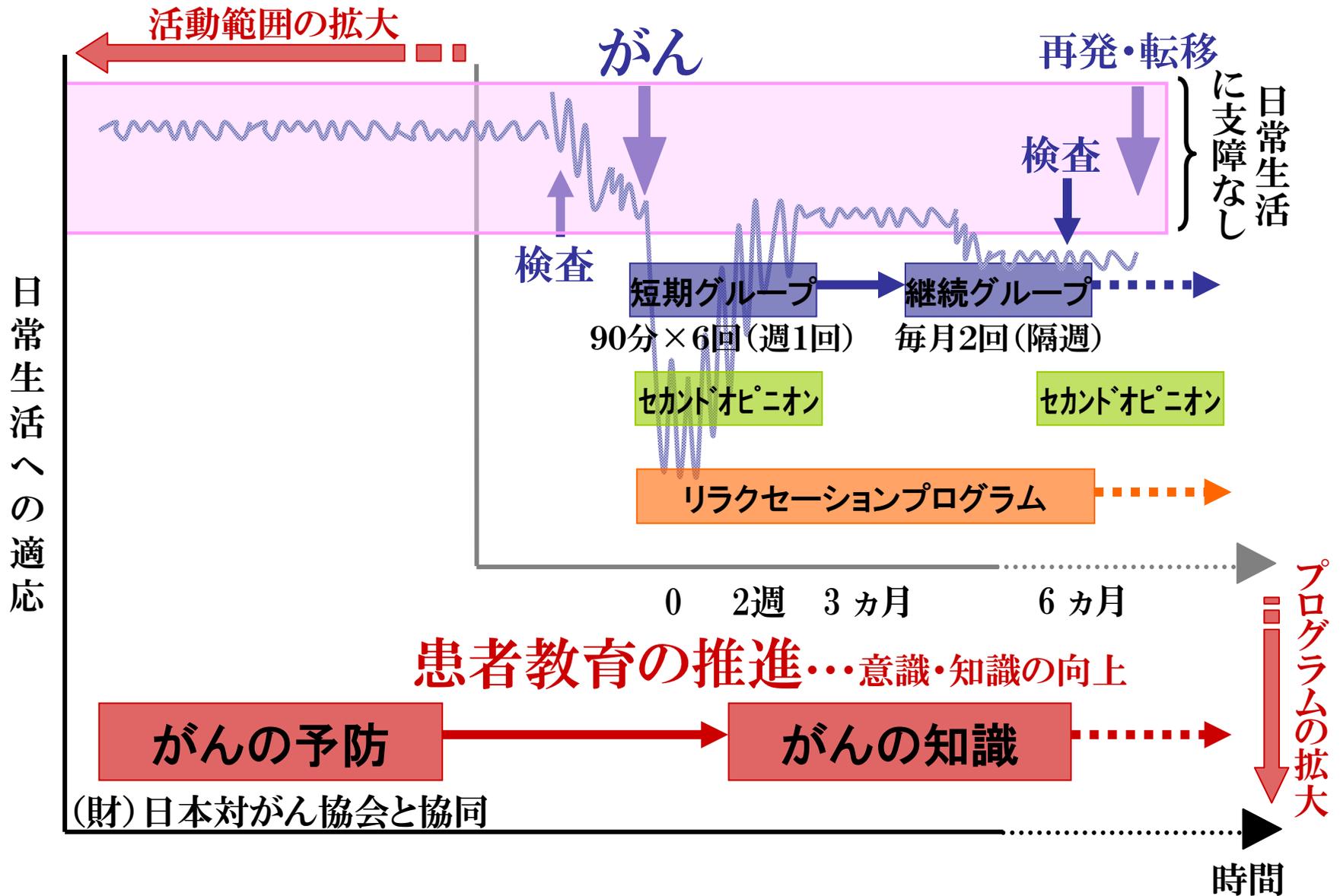
地域ごとに支部を開設

地域患者会等とネットワーク

ファシリテーター育成プログラム

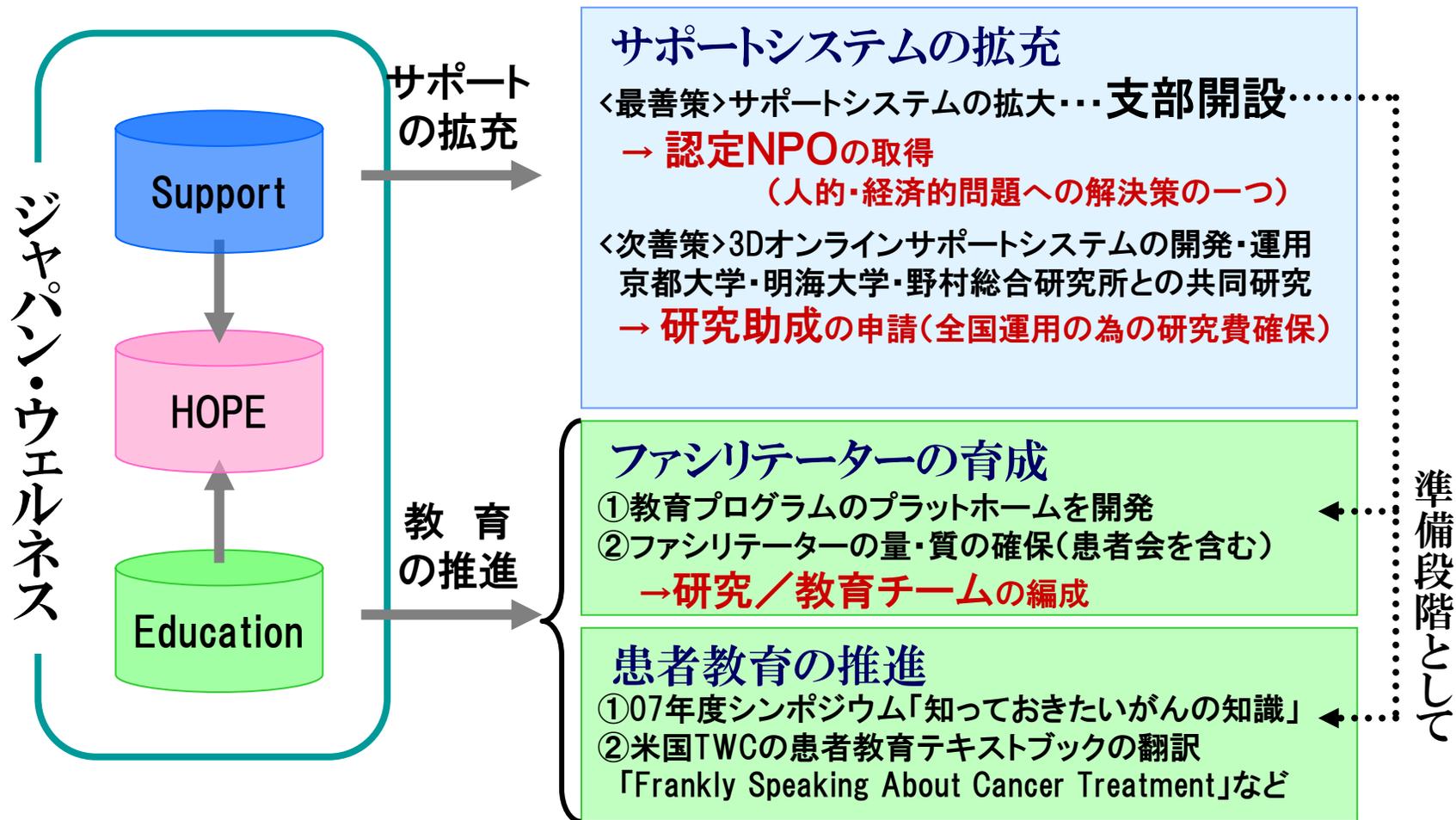
臨床心理士、ソーシャルワーカー、
看護師、がんサバイバーに対する
教育のプラットフォームが必要

がん患者・家族サポートシステムの質的拡充構想



ジャパン・ウェルネスの今後の課題と目標

Patient Active から Life Active へ



患者・家族のニーズを把握するためにアンケート調査実施中
(平成18年度厚生労働科学研究費補助金-医療技術評価総合研究事業-分担研究により)